

22 全国曹洞宗青年会

SOUSEI

179
2017.11



特集
異文化としての
禪



特集 異文化としての 禅

「禅」に興味を持つ人が国内外に増えていきます。今号では海外から見る「禅」とはどのようなものかを肌で感じるべく、世界から修行僧を受け入れている岡山県の洞松寺様を訪ねました。前半部では同寺堂頭の鈴木聖道老師と修行僧のお二方との鼎談を通して、異文化から見た「禅」を考えます。特集の後半では洞松寺での修行体験の様子をレポートします。



ていだ 鼎談



堂頭 鈴木聖道老師

—無住であった洞松寺を復興し、僧堂を開かれたきっかけとは？

鈴木堂頭／ここ洞松寺は前住の赤松月船老師の後、長らく無住で廢墟のようになっておりました。当時の私はアメリカから帰国して愛媛県の瑞應寺に入り、修行後は法事の最初と最後に5分間の坐禪を取り入れたり、坐禪堂の建立にも励んでおりました。そんな折、洞松寺の住職にというお話をいただきました。最初はお断りしていましたが、実際に伽藍の様を見て迷った末に、なんとかしなければと決心したのが復興のきっかけです。

当初は梁が禪堂の屋根を突き破っていて、コウモリまで住んでいました。それで先ずは掃除に通うことから始めました。最初の

3カ月はコウモリと一緒に坐禪をしておりました。その後に遠縁の和尚さまと二人で住むようになり、災害時用のガス缶でお粥を炊いて参禪の方々と共に食べたものです。もう10年になりますが、その頃から今も

毎朝坐りにいらっしゃる方や、町の役場の職員さん方なども坐りにこられます。私は何もせず、ただ坐っていたのですが、門葉の寺院の皆様や13軒の檀信徒の皆様、参禪の皆様が背中を押していただいて、こうして復興できたというわけです。

—縁の繋がりから今の形に整ってきたと？

鈴木堂頭／そうですね。先住地で海外の方の坐禪も受け入れていたので、最初はその延長でした。だから僧堂になる前から外国の方

も来られていました。平成21年に正式に開単し、そこからはより本格的に外国の方の受け入れも始め、平成26年に曹洞宗宗務庁からお話をいただき、宗立専門僧堂が併設されました。

そうすると、また「輪」が広がってさらに沢山の方が修行にこられるようになりました。入制(特別な修行期間)の頃には20人前後になりますので、行持を全て経験できますし、僧堂での食事も行います。縁の繋がった形ですからありがたいことです。

—無門師の上山のきっかけは？

無門師／私は10代の頃に本を読んで「禪」に興味を持ちました。日本文化に興味がありましたので、空手と坐禪に取り組んでいま

したが、いつしかお坊さんになりたいと考えるようになりました。

1990年にチリ人の師匠と出会い、1992年にアルゼンチンで出家しました。そして日本での修行のために6年前にこの洞松寺に送ってもらい、今に至ります。

— 出家にまで至ったのはなぜですか？

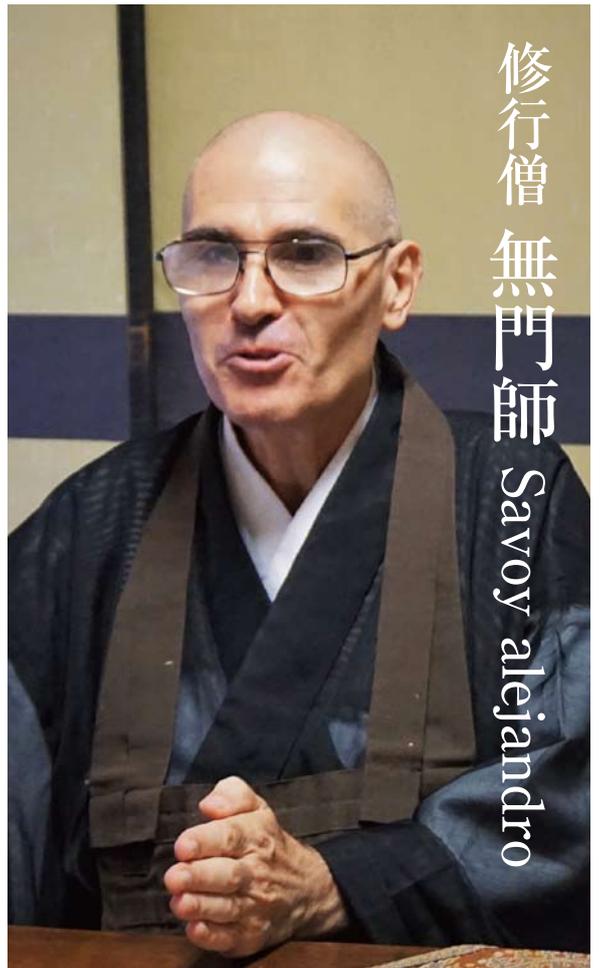
無門師／生と死について考える中で、そこに答えを出すためには余計なものを捨て、ひたすらに坐り、自己と向き合うことが必要だと思ったからです。たしかに坐禅は出家しなくてもできます。けれども趣味のままでは納得のいく答えには辿り着けないと思い、出家を決意しました。

そして今、もう一つ僧侶を目指す理由があります。日本に来て東北の震災を知った時、僧侶として誰かの支えになりたいと思ったのです。自分のためだけでなく、誰かの助けにもなる僧侶を目指しています。

— 靖史師は無門師のような海外からの出家者から学ぶところも多いのでは？

靖史師／そうですね。坐禅に対する姿勢を外国の方から学ばせていただくことも多いです。私はお寺で生まれましたから、やはり職業としての「お坊さん」が認識にあるので、生き方としての「お坊さん」を突き詰めて真摯に取り組み無門師の姿にハッとさせられました。

修行僧 無門師 Savoy alejandro



— 外国の方が多い僧堂を選んだ理由は？

靖史師／父と兄も瑞應寺で修行していたので、同寺におられた堂頭老師が新たに僧堂を開かれて、外国の方々を大勢受け入れてることを知りました。外国の方が沢山いらつしやる環境は自分にとって良い経験になると思います、この洞松寺を選びました。

— 言葉や文化の違いに不安はなかった？

靖史師／皆さん優しくそうで不安はありませんでした。けれども実際に上山して自分の甘さを知ることになりました。電話の対応など、少ない日本人として率先して動かなくてはならない場面も多いですから。

言葉は久しぶりに単語帳を開いて挑戦しました。これをいい機会と考えて、もう一度基本からやり直そうという気持ちで取り組んでいます。

— 無門師が実際に上山して驚いたことは？

無門師／それは経験する物事、全部です！故郷にいた時は坐禅しかない環境でしたから、坐ること以外は全て初めての驚きでした。法要も托鉢も、毎日のお勤め全てが驚きです。

靖史師／大根をジャパニーズ・ラディッシュと呼ぶので、食べたことある？と海外僧の方に聞いてみると、「いや食べたこと無い」との答えが返ってきたり。「君たちにとっての当たり前が自分たちにとっては全て驚きだ

よ」と教えてもらいました。

外国から来られた方にとっては、本当に『全部』が新しい驚きなのだと思います。

— 共同生活を送る上でお互いに気をつけていることはありますか？

無門師／これについても全部です！初めてのことばかりですから、何にでも気配りが必要です。

しかし、仏道のルールを第一に尊重して生活していますから、そこを基本において、どうしてもなる部分を尊重し合えば、それぞれの文化の違いがトラブルになることはありません。

靖史師／食べるとアレルギー症状が出るものは、食べられる人が食べます。他にも故郷の食文化によって、どうしても苦手な物ももちろんあります。無門さんはワカメが食べられませんね。

無門師／ワカメと、海苔や海藻が苦手です。あと納豆も苦手ですね…。

靖史師／納豆の時は印象的で、トライする人もいれば断念する人もいて、なんだかホームドラマのコメディシーンのようでした。

そんな色んなことに挑戦しながらの生活ですから、どうしてもなる部分を無理に強制するのではなくて、苦手な物も認め合うことが大切なのだと学びました。

—僧堂全体で気を遣われていることは？

鈴木堂頭／やはり言葉が問題になることがありますから、最初慣れるまでは気をつけなければいけません。しかし慣れてくると言葉の問題は些細なものだと気付きます。修行は黙って行うことですから。

靖史師／今もフランス語は大丈夫だけど英語はあまりという方がいます。分かる方にフランス語を英語に通訳してもらい、さらに英語を日本語に通訳したりしていますね。

—一般の参禅の方も多いようですね。

鈴木堂頭／ここで出家することを目指して参禅している者が今もおります。古い衣や法具を宗務庁様や全国の御寺院様からいただいて、使わせてもらっています。海外では売っていませんし、日本で買うと高価ですから。皆様のご支援もあって、参禅者も僧侶を目指すことができます。

—観光で外国の方がお寺に訪ねてくることも増え、戸惑うこともあります。これからどんなお寺が増えると良いと思いますか？

無門師／原点に帰るべきだと思います。時代や場所によってスタイルは変わったとしても、「禅」を求める人がいることは変わりません。だからこそ原点の「禅」を時代に合わ



せた形で大切にし、その上で先ずはしっかりと坐禅を実践していくべきだと思います。

靖史師／もつと大らかになるべきだと思います。この僧堂生活で、はねつけるより受け入れることの大切さを知りました。「今まで」に固執することなく、世情の変化も良いことも悪いことも先ずは受け入れ、そこから適した形に整えていく。堂頭老師がそんなお方なので私もそうありたいと思っています。

—堂頭老師からみて、いかがでしょうか？

鈴木堂頭／私は海外からの僧侶も日本の僧侶も分け隔て無く考えています。皆が同じように修行出来ることを大切にしています。国も文化も言葉も違う僧が集まり和合する。皆でやるから良いのです。確かに「違い」

からくる難しさは有る。しかしそこに囚われてはいけません。

だから、どんな寺院においても同じこと
で、特別に考え過ぎないことです。来られた方を特別扱いせず、あくまでそこ（一般寺院）は修行の場として受け入れる。だから坐禅もしていただいたら良いですね。

—どのお寺も「修行道場」たる自覚を持つべきだと？

鈴木堂頭／ええ。でも厳しくすれば良いというものでもない。住職さんは皆それぞれ堂頭老師です。だから集まった人達それぞれの長所と短所をよく理解して、その人に合った指導をしていかなければなりません。そこが正に修行力が表れる所ですよ。そしてもう一つ、衣を脱がないことです。

最近では町を法衣で歩く方も減りました。でも僧侶を見かけるだけで人は悪心があっても良心に変わるものですよ。全国の僧侶が法衣を着て市中を歩いてみればどれだけの人の心を照らすことになるのか、きつと世の中に灯りをとますことになりすよ。

—道にお地藏様がいらつしやるのも同じような意味とも言われていますね。

鈴木堂頭／その通り。しかしそれだけでは無く、良い縁を結ぶことにも繋がりますよ。良いお香の香りですねとよく声をかけられて、そこから話が始まることがあります。それが良い縁になったりもするのです。そうして言葉より何より「行ずる」ことが本当に大切です。そうしていれば、そのうちメンバーが集まっていますから。

—ここで時間を過ごさせていただいて本当に垣根が無いこと、日本人も外国人も一緒に感じました。

鈴木堂頭／そうです。皆同じで大差はないのです。almost(些細な差です！)

無門師／私はまだ修行中の身に人に禅を教えるようなことはできません。けれど苦しむ人に寄り添うことは出来ます。「私自身は先ずはしっかりと行じていき、そしていづれは誰かと一緒に禅に取り組む」そんな思いでこれからもここで精進してまいります。

洞松寺修行体験記

平成29年9月21日・22日





『洞松寺』とは Toshiho temple

岡山県、小田郡矢掛町の山の麓、舟木山洞松寺は静かにそこに佇んでいます。梅花流詠讃歌（以下、梅花）、約3分の1にあたる35曲の作詞者、詩人赤松月船老師の在任地であり、梅花の聖地としても知られるこの寺院は、長らく無住の時間を経て、現在は鈴木聖道堂頭老師（以下、鈴木堂頭）の元、洞松寺専門僧堂として復興し、曹洞宗立専門僧堂が併設され、国内外からの多くの修行僧や参禅者を迎え育成しています。

また梅花の聖地として外国人四級師範を輩出し、梅花のピアノアレンジや、梅花のテンポやメロディーに着目した梅花オルゴールの作成で音楽としての可能性を広げるなど、「禅」を次世代の広い世界へと伝えていく寺院として、大衆和合に日々の修行に打ち込まれています。

『食』について Meal

共同生活に食の問題はつきものです。この洞松寺でも食物アレルギーや、育った国の文化によって口に合わない食べ物等の問題に向き合わなければなりません。たとえ食べることが出来ない物でも忌避して捨ててしまうのではなく、食べることが出来る

修行僧を並べる「応量器」に則り作法に朝食。



人間が分け合って必ず食べるよう心懸け、食材の命をいただいていることへの感謝の気持ちをお大切にしているそうです。

食事が出来上がれば、修行僧が、敬意を込めて食事をいただけるように願いを草紙天様に託す、僧食九拜というお拝を行います。続いて食事をいただく部屋へと運び、全員が作法に則り応量器を丁寧に扱い「食材の命を奪うのではなく、いただく」という気持ちで食事を受け取ります。

そんな真剣に食事に向き合う姿を拝見し、改めて私たちも修行僧の皆さんと同じように食材に感謝し、美味しく食事をいただきます。

『諷経』 Sutra

毎日変わることなく朝課諷経、日中諷経、晩課諷経をお勤めされます。正座の文化の無い国で育った外国人修行僧の方々も、しっかりと正座でお勤めされていました。日頃の生活の中で坐蒲などを脚に挟み正座し、徐々に慣れていきながら長時間のお勤めにも正座で臨めるよう努力しているそうです。

ふと皆さんが開いている経本を見ると、日本人修行僧は日本語の経本、外国人修行僧はアルファベットの経本をそれぞれ開いていました。初めて見るアルファベットの経本に大変興味が湧き、後ほど改めて見せていただきました。経本には単語毎にきちんと区切りが有り、単なる音ではなく一言の言葉として発声できるよう工夫が施されていました。そんな経本を開き、お勤めされる修行僧の皆さんの姿を思い出すと、言葉としてお経と真剣に向き合おうとする信念が見える気がしました。

『坐禅』 Zazen

私たちが伺った夜には、僧堂で鈴木堂頭



毎日のお勤めでローマ字表記の経典を読む海外僧

より『大智禪師偈頌』の提唱をいただきました。

日本語と英語を交互に用いながら語りかける鈴木堂頭は、見た目や肉体という入れ物にとらわれることなく、中身を見ることの大切さを重ねて説かれておられるように感じました。そんな言葉に日本人修行僧も外国人修行僧も同じように静かに聞き入り、学ぶ姿を拝見すると、言葉という入れ物はそれぞれ違ったとしても、肝心なのはその中にある、まさに中身なのだ実感します。

翌朝は4時に起床し、前夜の提唱より長い2柱(約2時間)の暁天坐禅で、壁に向かい只管(ただひたすら)に坐禅に没頭しました。

自分より大柄な外国の方が坐られているのを見ると、日本人と比べてとても大きなその背中に迫力を感じます。しかしそこで「禅」というのは言詮不及(言葉では真理を説明できない)である。やるかやらないかだと、昨夜に鈴木堂頭からいただいた提唱の言葉を思い出しました。

いま眼前に並び坐禅に打ち込む方々は、生まれも育ちも性別も皆違います。しかしそんなことよりも重要なのは、全員が一緒に「やるかやらないか」の「やる」を選び、この場に集まっているということです。そう思うと、大きな背中に同じ目的を持つ人への親しみを感じるようになりました。自分の無意識の色眼鏡で、目の前が正しく見えていなかったことが分かりました。

『作務』 Work

洞松寺に着いて、最初に日本人修行僧と話した際、「エクスキューズミーや、気軽にハイでも良い。とにかく話し掛けてみれば後は簡単な英単語と身振り手振りで伝わるので、英語を喋ることが出来なくても大丈夫です」と伺いました。

そこで身振り手振りを交え、なんとか作務に参加したい旨を伝えようとしたが、中々意思が伝わりません。考えあぐねた末に「アイウォント作務！」と申しましたところ、「OK let's go!」とのご返事が。笑顔で快く作務に混ぜていただいたのでした。

作務では瓦畳の隙間の埃まで取り除き、丁寧に掃除に取り組む姿が印象的で、庭には少しの雑草も残されておりませんでした。また目の不自由な方に代わって玄米の籾殻取りを皆で行うなど、年齢や性別、それぞれの体力面の事情や向き不向きも考えながら行動されていて、各々が自分出来るやり方で山内をより良くしようとされておられ、積極的に動く修行僧の心懸けが目に見えて伝わってくるようでした。

『生活』 Life

洞松寺には、全員が同じように修行生活に臨むための様々な工夫があります。予定を記載するボードや設備の看板、入浴前にお唱えする偈文の書かれた札など、どんな物にも日本語だけでなくアルファベットの表記が添えられ、皆が同じように修行生活を送れるようにとの心配りが随所に感じられました。

工夫は設備だけではなく、大衆の皆さんの心の中にもあるようでした。鈴木堂頭の説法を真剣に聞く姿や、午後の行茶の時間



暁天坐禅。早朝から坐と親しむ



鈴木堂長の一言一言が堂内に浸透していく



食べる前に食事を韋駄尊天に供えて拝をする

に皆が集まり、和やかに談笑する様子を拝見していると、それぞれが生まれた時から親しんで使ってきた言葉が通じない共同生活であっても、その中で相手の言いたいことを理解しようと1人1人が努力されていることがよく分かります。

同じ言語同士の会話では、つい言葉の表面の意味だけで理解したような気持ちになりがちですが、洞松寺ではお互いが言葉のみに頼らずに意思疎通をはかることで、言葉以上に心根のところを理解し、深い一体感が生まれています。そんな努力の姿勢こそ和合の空気を作る一番の工夫なのだと分かりました。

修行体験を終えて

今回は1泊2日という短い時間ではありましたが、洞松寺の皆様には快く私達の滞在をお許しいただき、その中で多くの工夫や皆様の強い信念を感じました。志を同じくする僧侶の一人として沢山の発見をさせていただきました。

修行体験を終えての下山時、空は生憎の雨模様でしたが、皆様全員で山門までお見送りくださいました。相手に対するどこまでも真摯な姿勢に感謝するとともに、名残惜しい気持ちで帰路につきました。



取材班も作務に混ぜていただきました



行持の合図は鳴らし物にて告げられる

特集の終わりに

今期スローガン『禅を世界へ、そして未来へ』が発表され、このスローガンのために何が出来るか考えた時、先ずお寺に來られる海外からの観光の方々のことを思い出しました。

日々の檀務の合間、稀に観光の外国人の方が本堂に向かい手を合わせて下さるのをお見かけします。田舎の方にも興味を持ってやってくる観光の方が増えたのだなど、話しかけてみようなどは考えもせず、今まで一礼して見送るばかりでした。

そんな外国の方たちと交流するにはどうすればいいのだろう。そう思ったことが今回の特集へと繋がっていきました。

実際に海外の方と接すると言葉に頼らない意思疎通の難しさを実感しました。簡単な英単語と思っても咄嗟には中々浮かばないものです。ならば身振り手振りをも思ってもそれも上手くいく時もあるれば、伝わらないことも何度もありました。

しかし言葉に頼れない状況だからこそ気付いたこともありました。自身の言いたいことが相手に伝わったのだと分かるのは、相手が笑顔を見せてくれた時です。そして逆の立場になっても、外国の方が何とか伝えようとしてくれた意思を理解できた時、それが嬉しくて自分が自然に笑顔になるこ



中山道落合宿善昌寺 観光坐禅の様子

禅の和合は言語を越えて

とも気付きました。

会話、意思疎通ではただ言語を理解するだけでなく、相手の意思を理解することが大切です。洞松寺の皆様は段々と意思疎通は慣れてくると仰いましたが、これはきつと英語や日本語の言葉に慣れるのではなく、相手の気持ちそのものを理解することに慣れていくという意味だったのでしょう。重要なのは言葉が通じようと通じなかつと、理解し合おうとする心懸けなのだと言え、流の中で学ばせていただきました。

こうした国際交流に学ぶ機会は特別なことではなく、昨今の観光客の増加とともに全国各地で増えていきます。岐阜県旧街道沿いにある寺院では実際に外国からの観光の方が訪れ、坐禅会が行われました。

訪れた方の大半は日本語も英語も通じない方で、畳に座するという文化のない国からの訪問者でした。中には胡坐で坐ることの出来ない方もおり、ほとんどの方が最初は椅子での坐禅を希望していました。初めての坐禅に緊張している方も多いたろうと思いい、「先ずは坐禅の真似から始めましょう」と互いに知っている僅かな英単語を用いながら身振り手振りで説明をしていきました。すると少しづつ坐蒲に坐って脚を組みたいという人が増えていき、静かに坐り終えた

後には、ここでも沢山の笑顔を見ることができました。

言葉に頼らず気持ちを伝えることは難しいです。しかしそこにお互いの伝えたい気持ちと理解したい気持ちがあれば、言葉で伝えるよりもっと深く意思を理解し合えるのかもしれない。そうして気持ちを伝えられた時、そこには相手と理解し合えた喜びが笑顔となって表れます。言葉に頼ることなく実相を見つめる。コミュニケーションとはそれそのものが禅となりえるのかもしれない。

日本語であろうと外国語であろうとも、言葉だけではなく、心そのものを見ること出来るようになれば、言葉の壁も文化の壁も越えて禅は世界に広がり、和合の空気が流れるのかもしれない。私たち僧侶も、先ずは身振り手振りでも何でも良いので「一緒に坐禅をしませんか」という気持ちを伝えることが和合の第一歩ではないでしょうか。

取材・文／広報委員 菅 悠生
広報委員 井口昭典

取材で撮影させていただいた沢山の写真を「洞松寺取材写真集」として全曹青ホームページ『般若』、アプリソウセイ、YouTubeで公開しています。ぜひご覧ください。

レポート 全曹青



阿波踊り団体「うしお連」の皆様にご阿波踊りを教えていただいたときの集合写真（徳島）

第6回子ども自然ふれあい広場

—IN 徳島

平成29年7月25日から28日にかけて徳島県美波町及び鳴門市で「子ども自然ふれあい広場IN徳島」が行われました。

宮城県・福島県の小学生22人、四国の禅キャンプの小学生20人、合わせて42人の子どもたちが参加しました。

今年行われたのは、JALさんの紙飛行機教室・プチ修行体験・地元阿波踊り団体「うしお連」さん指導での阿波踊り体験・うみがめ博物館見学・海水浴・御詠歌体験・第一次世界大戦でのドイツ人捕虜収容所跡のドイツ館見学など様々な企画でした。

プチ修行体験のあと、伊藤正賢老師（曹洞宗特派布教師・高知県浄貞寺住職）の法話での「いつもしていただいている物事に対して感謝の気持ちをもって『ありがとう』と言えるようになりますよ」という言葉に子どもたちは真剣に耳を傾け、その後、すぐにも実行していました。

今回のキャンプを通して、子どもたちそれぞれが何かをつかんで成長したのではないかと思います。

文／庶務 本土悠悟

子ども自然ふれあい広場

—IN 宮崎の海

平成29年7月25日から27日の3日間「子ども自然ふれあい広場IN宮崎の海」が開催されました。

25日の朝5時に福島県南相馬市の原ノ町駅集合。宮崎県の「青島青少年自然の家」へと向かいました。野外炊飯、浜辺で坐禅、ビーチクリーン、サーフィン体験、海水浴、バーベキュー、鶴戸神宮参拝を行いました。

宮崎の暑さの中を全力で遊び、宮崎の温かい人々と触れ合い、たくさんの笑顔を見せてくれました。子どもたちは「何かやることありますか？」と自ら行動したり、帰りの新幹線のお弁当の際には「五観の偈を唱えてもいいですか？」と聞いてきたりと、その自発性に驚かされ、学んでいます。

本事業に携わってくださっている皆様、色々準備をしてくれて温かく子どもたちと接してくれた宮崎の皆様へ感謝申し上げます。

文／庶務 原田恵一



ビーチサーフィンを習う子どもたち（宮崎）



味来食堂×禅の食育Ⅰ山梨 笛吹川フルーツ公園で開催

平成29年7月6日に「味来食堂×禅の食育」と題した精進料理教室が、山梨県の笛吹川フルーツ公園内のクッキング教室において開催されました。

講師は、全国曹洞宗青年会の河口副会長ら3人が務め、参加者は定員を上回る27人にもほり、精進料理に対する関心の高さを窺わせました。

最初に全員で5分間のいす坐禅を体験した後、調理を開始しました。参加者は、今回特に講師が力を入れていた精進出汁に興味津々の様子でした。最初はやや緊張していた参加者の方々も、次第に打ち解け、和やかな雰囲気で行いました。

最後に綺麗に盛り付けをし、全員で五観の偈を唱えた後、料理をいただきました。参加者からは精進出汁を使った料理に好評価をいただきました。

食材を大切に生かす心、ただ「食べる」のではなく感謝の気持ちで「いただく」心、そういった精進料理の心が参加者の方々に伝わり、ご家庭で実践していただけることを願います。

文／広報委員 武田信光

僧食を学ぼう！味来食堂 新潟県曹洞宗長生青年会が開催

平成29年9月29日に新潟県長岡市J A 越後ながおか「なじらーて東店」店内の市民交流施設「e・i・n・e」調理実習室を会場に、新潟県曹洞宗長生青年会（以下、長生青年会）主催・全曹青共催の精進料理教室「僧食を学ぼう！味来食堂」が開催されました。

まず長生青年会にも所属している近藤真弘教化委員長の挨拶から始まり、今回の講師である長生青年会の安藤亮英師と高野道弘師の指導の下、2つのグループに分かれて調理が始まりました。

今回のメニューは、お粥、飛竜頭と季節野菜の生姜あんかけ、インゲンと人参の胡麻和え、手作りくず餅、漬物の五品です。終始和やかな雰囲気でしたが、その中でも皆様は真剣にメモを取り、講師の方々に調理のこと以外にも、様々な質問が飛び交っていました。

盛り付けが終わり近藤委員長より精進料理の心得、そして食事の作法の説明を受け、全員で五観の偈を唱えた後、料理をいただきました。参加者の皆様から、「とても勉強になった。次回もぜひ参加したい」といった声が聞かれ、最後に全員で普回向を唱え閉会となりました。

文／広報委員 大菅哲哉





平成29年 九州北部豪雨被災地 支援活動レポート

7月5日、九州北部に於いて未曾有の雨が降り大きな被害をもたらしました。佐賀県曹洞宗青年会は、7月10日より被災地である福岡県朝倉市に入り情報収集並びに、各避難所へ伺いました。大量の土砂や木材が街に流れ、多くの家屋や農地、道路等が被害を受けていました。

7月11日から7月25日・8月17日から9



月11日まで朝倉ボランティアセンターを通し活動を行いました。家財道具の運び出しや床下の泥上げを行ってまいりましたが、未だに重機も入れず現地に入れない地域もまだまだ多くあります。活動中は時期的に熱中症になる方もあり、天候具合で中止になることも多く、活動として困難な状況下であったかと思えます。また、支援の一環として街頭で募金活動を行いました。

文／佐賀県曹洞宗青年会

平成29年 秋田県豪雨被災地 支援活動レポート

7月22日からの大雨により、秋田県で甚大な被害がありました。秋田市・大仙市・横手市を中心に住居や道路、農作物も大きく被害を受け、大雨の被害としては秋田県で過去最大となりました。また8月24日からの大雨でも、ほぼ同地域にて多数の被害がありました。短期間に2度の被害にあつたお宅も多くあり、痛ましい限りです。

秋田県曹洞宗青年会ではマージングリストなどにより初期の被害状況の情報共有にあたりました。7月28日に会員9人が被災寺院の復旧作業に当たりました。8月2日には支援ト鉢を秋田市で行いました。また秋田市と大仙市のボランティアセンターへ会員が赴き、泥かき、荷物運び出し等の活動を行いました。

活動期間が盆や彼岸と重なり、人数確保に難儀すると思われましたが、会員の災害支援意識の高まりにより、まとまった人数で活動ができました。8月2日には岩手県曹洞宗青年会が秋田市・大仙市に入って活動されたほか、東北各曹青からお声掛けをいただきました。また全国各地より活動支援金やお見舞いのお言葉をいただき、心より感謝申し上げます。

文／事務局長 山田俊哉





第41回東海管区曹洞宗青年大会開催
釈迦の教えで笑顔の日々を

第41回東海管区曹洞宗青年大会を主催
東海管区曹洞宗青年会、主管静岡第三同志
会にて、平成29年10月1日から2日に開催
いたしました。
今大会は『仏笑』というテーマにて、私た
ちがお釈迦様のみ教えにふれることで、お
互い笑顔の日々を過ごせるよう企画運営し
てまいりました。

1日目は記念法要のあと、福井県臨済宗
大安禅寺、高橋玄峰師をお迎えし『日々是
好日〜に掃除、二に笑顔、三四元氣にお
かげさま〜』という演題の特別法話をして
いただきました。ステージから降り参加者
との掛け合いもあり、楽しい雰囲気の中にも、
大切なことをしっかりと私たちに気付かせ
ていただきました。

引き続きお笑いコンビ、笑い飯哲夫氏に
よる特別講演として『おもしろ仏教講座』と
いう演題にてご講演していただきました。
青年会員を含め約300人の参加者からは
終始笑い声がたえず、お釈迦様の生涯、み
教えを解かりやすく面白くお話ししていただ
きました。

また、一般参加者に、よりお寺に親しん
でもらうための体験コーナーを設け、法衣
の展示をはじめ、磬子や木魚、鼓鉢を鳴ら
すことができたり、香炉掃除を体験したり、
坐禅、写仏をしてもらいました。こちらも
好評でした。

2日目は青年会会員のみで、浜岡原子力
発電所を見学しました。現在は稼働してま
せんが、エネルギー発電の現状や原子力発
電の仕組み、自然災害対策への安全性など
現場を見ながら参加者それぞれに原子力発
電について考えを深めました。

最後になりますが、ご協力をいただきま
した全曹青、東海管区各曹青会の皆様あり
がとうございました。

文／静岡第三同志会

全日仏青
News



JYBA
ALL JAPAN
YOUNG BUDDHIST
ASSOCIATION

平成29年9月21日、世界仏教徒連盟WF
B主催による故・プミポン前国王の追悼行
事がタイのバンコクで行われました。

フラナコン区の「ワット・パウオーンウエ
ニットウイハーン寺院」において、世界仏教
徒連盟WFB執行役員や世界仏教徒青年連
盟WFBY執行役員、日本からの参加者と
ともにタイ国王陛下追悼の法要が勤められ、
全日本仏教青年会から倉島理事長をはじめ
15人が参加いたしました。

法要後には、プミポン前国王のご遺体が
安置されているタイ王宮ドゥシット・マハ・
プラサート宮殿内ワット・プラケオ(エメラ
ルド寺院)に移動。タイ国の僧侶による読経
や海軍楽団による演奏が奉納される中、タ
イ国民とともに弔問しました。

最高気温34.4℃と蒸し暑い中でした
が、バンコクのみならずタイ全土より多くの
人々が集まり、ロウソクや花を供える姿がと
ても印象的でした。プミポン前国王は、仏教
のみ教えのもと、自ら貧困地帯への訪問を
繰り返し、人々が自立してより良い生活が
できるように私財を投資し支援を続けてこ
られました。タイ国民から深く敬愛される
国王であった事をあらためて感じる機会と

タイ前国王追悼行事
全日仏青15名が参加



なりました。この日の最後には、プミポン
前国王のご遺体が安置される部屋にも、ご案
内いただき、宝石がちりばめられた黄金の
座棺の前に参加者全員で黙祷することがで
きました。

70余年にわたって国を統治されてこられ
たプミポン前国王。その功績は大きくタイ
国民の哀しみは計り知れませんが、国を超
え、同じ仏教徒が共に追悼し、共に祈りを
捧げる姿が、タイの人たちの失われた時間
への励ましになることを願ってやみません。
あらためてプミポン国王陛下のありし日の
お姿を遥かに偲び、謹んでご冥福をお祈り
申し上げます。

文／全日仏青特別委員

(全日仏青・国際副委員長) 高柳龍哉

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

◆宮城県

- 10 瀧澤寺 様
- 13 福聚院 様
- 55 実相寺 様
- 59 清水寺 様
- 60 柳澤寺 様
- 94 秀麗齋 様
- 113 繁昌院 様
- 202 皆傳寺 様
- 205 龍川寺 様
- 252 福厳寺 様
- 303 長谷寺 様
- 392 金秀寺 様

◆岩手県

- 28 聖福寺 様

- 81 円城寺 様
- 124 西光寺 様
- 166 寶泉寺 様
- 195 安養寺 様
- 196 建高寺 様
- 233 玉泉寺 様

◆青森県

- 27 蘭庭院 様
- 74 浮木寺 様
- 99 正法寺 様
- 100 澄月寺 様
- 115 心月寺 様
- 148 報效寺 様
- 189 乗照寺 様

◆山形県第1

- 52 柳澤寺 様
- 219 英照院 様
- 241 福昌寺 様

◆山形県第2

- 344 蔵高院 様

◆山形県第3

- 521 大川寺 様
- 628 宗伝寺 様
- 663 正徳寺 様
- 735 冷泉寺 様
- 740 長應寺 様

◆秋田県

- 8 天龍寺 様
- 18 乗福寺 様
- 49 乗江院 様
- 96 円通寺 様
- 125 高昌寺 様
- 157 香積寺 様
- 166 久昌寺 様
- 209 満友寺 様
- 216 向川寺 様
- 235 龍巖寺 様
- 246 福城寺 様
- 252 長泉寺 様
- 261 見性寺 様
- 321 鏡得寺 様

◆北海道第1

- 489 龍徳寺 様

◆北海道第2

- 172 大雄寺 様
- 241 孝徳寺 様

◆北海道第3

- 226 大昭寺 様
- 331 潮音寺 様
- 460 道貫寺 様

ボ ラ ン テ イ ア 基 金 感 謝 録

- 東京都 曹洞宗宗務庁 様
- 東京都 長泉寺 様
- 東京都 清厳寺 様
- 千葉県 満蔵寺 様
- 静岡県 盤脚院 様
- 静岡県 栄昌寺 様
- 静岡県 久應院 様
- 愛知県 全隆寺 様
- 愛知県 宝鏡寺 様
- 愛知県 聚福院 様

- 岐阜県 霊泉寺 様
- 岐阜県 龍雲寺 様
- 三重県 四天王寺 様
- 三重県 真如寺 様
- 三重県 地藏院 様
- 三重県 常安寺 様
- 京都府 善光寺 様
- 京都府 護国寺 様
- 兵庫県 岡本寺 様
- 広島県 香積寺 様

- 広島県 西金寺 様
- 広島県 延命寺 様
- 山口県 安養寺 様
- 愛媛県 本光寺 様
- 愛媛県 西禅寺 様
- 愛媛県 本光寺 様
- 愛媛県 清盛寺 様
- 佐賀県 宝昌寺 様
- 熊本県 地藏院 様
- 宮城県 龍川寺 様

- 宮城県 秀麗齋 様
- 青森県 報效寺 様
- 青森県 正法寺 様
- 山形県 正徳寺 様
- 山形県 冷泉寺 様
- 秋田県 高昌寺 様
- 秋田県 見性寺 様

寺院用仏具・仏壇・墓石・製造販売
曹洞宗梅花流法具販売指定店

 株式会社 **放光**

本社・工場 〒940-0825 新潟県長岡市高畑町 617
☎ 0120-174176 FAX 0258-32-7149
ホコブツグ http://hoko-butugu.com/

そろそろ修理

掛軸 書画半切 三、九万円より
仏壇・仏具 修理新調
涅槃図等 大中 修理新調
二十九万円より

書画 半切 二、五万円より
半切 一、五万円より

仏像 本指欠損から修理新調 五万円より
鍍金の修理 新調 補充

仏具 金具交換 漆塗り直し修理新調
衝立張替 三、九万円より
屏風修理新調

式典具 製造価格にて新調

納骨壇 表板の取替(裏表) 一万円より
火喰補修

過去帳 補修

大般若経 見積無料

全てお引受します

京都掛軸 杉本工芸
〒602-8268 京都市上京区山里町 236-1 TEL 075-417-6966

賛助費浄納御芳名簿

平成29年6月14日～9月28日取扱い分

◆東京都

18 大泉寺 様
106 観泉寺 様
177 清巖寺 様
239 宗保院 様
330 大泉院 様

◆神奈川県第1

10 随流院 様

◆神奈川県第2

16 正観寺 様
67 以津院 様
69 大藏寺 様
131 乗福寺 様
393 大船観音寺 様

◆埼玉県第1

181 長光寺 様
190 廣徳院 様
392 報恩寺 様

◆埼玉県第2

331 曹源寺 様
339 清見寺 様
345 成安寺 様
569 長青寺 様

◆群馬県

15 天増寺 様
167 祥雲寺 様
194 善宗寺 様
311 泉通寺 様

◆栃木県

86 妙蕙寺 様

◆茨城県

132 来見寺 様
145 性山寺 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
22 廣壽寺 様
29 慶林寺 様
198 太高寺 様
357 永福寺 様

◆山梨県

267 福昌寺 様
277 光彩院 様

392 慈照寺 様
550 安楽寺 様

◆静岡県第1

26 宝珠院 様
34 洞慶院 様
95 久應院 様
152 宝持院 様
216 泉竜寺 様
421 盤脚院 様
463 栄昌寺 様
464 正泉寺 様

◆静岡県第2

332 龍雲寺 様
362 福泉寺 様

◆静岡県第3

988 福王寺 様
1228 栄林寺 様

◆静岡県第4

1177 禮雲寺 様

◆愛知県第1

5 功德院 様
7 全香寺 様
34 傳昌寺 様
44 正福寺 様
58 聚福院 様
96 全隆寺 様
101 成福寺 様
139 祇園寺 様
144 白毫寺 様
166 東陽寺 様
249 安祥寺 様
313 長松寺 様
336 弥勒寺 様
625 宝積寺 様
635 永澤寺 様
1241 観音寺 様

◆愛知県第2

684 花井寺 様
801 勢徳寺 様

◆愛知県第3

428 寶珠院 様
431 報恩寺 様
523 本光寺 様
557 楞嚴寺 様
1106 寶鏡寺 様
1254 良徳寺 様

◆岐阜県

15 東林寺 様
60 龍雲寺 様
99 靈泉寺 様
162 清楽寺 様
177 大隆寺 様
188 洞泉寺 様
190 長久寺 様
218 本覚寺 様
219 勝林寺 様
237 瑞巖寺 様
240 林陽寺 様

◆三重県第1

11 真如寺 様
37 四天王寺 様
38 傳法寺 様
132 地藏寺 様
183 光徳寺 様
203 等観寺 様
240 安心寺 様
246 寶山院 様
269 大蓮寺 様
273 禅龍寺 様
276 地藏院 様
284 常安寺 様
316 劔光寺 様

◆三重県第2

371 光明寺 様

◆滋賀県

113 徳圓寺 様
143 永壽院 様

◆京都府

26 岩屋寺 様
46 榮春寺 様
79 神應寺 様
236 善光寺 様
237 長川寺 様
378 徳昌寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

5 臨南寺 様
26 天徳寺 様
67 栄松寺 様
98 吉祥院 様

◆和歌山県

10 窓譽寺 様
52 宗應寺 様
57 南珠寺 様

◆兵庫県第1

9 三宝院 様

◆兵庫県第2

103 東林寺 様
149 瑞光寺 様
228 豊楽寺 様

◆岡山県

4 威徳寺 様
131 済渡寺 様

◆広島県

13 延命寺 様
46 双照院 様
47 香積寺 様
60 香積寺 様
86 西金寺 様
131 善昌寺 様

◆山口県

25 弘濟寺 様
72 真福寺 様
102 保福寺 様
145 久屋寺 様
172 廣福寺 様

◆鳥取県

32 吉成寺 様
114 安楽寺 様
143 瑞應寺 様
156 福嚴院 様
163 雲光寺 様
195 普音寺 様

◆島根県第2

43 福正寺 様
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
123 神宮寺 様
141 本願寺 様
159 源入寺 様
187 養善寺 様
195 總光寺 様
197 長栄寺 様

◆愛媛県

32 清盛寺 様
34 本光寺 様
113 西禅寺 様
146 興雲寺 様

◆福岡県

2 東林寺 様

5 妙徳寺 様

◆大分県

82 多福院 様

◆長崎県第1

78 宝泉寺 様

◆佐賀県

194 普恩寺 様
198 宝昌寺 様

◆宮崎県

38 観音寺 様
49 如法寺 様

◆長野県第1

12 松巖寺 様
86 圓福寺 様
105 福泉寺 様
119 龍洞院 様
121 浄光庵 様

◆新潟県第1

354 法音寺 様
389 雲居寺 様
397 善昌寺 様
496 長樂寺 様
502 東光寺 様

◆新潟県第3

558 周広院 様
637 洞泉寺 様

◆新潟県第4

82 養廣寺 様
259 長楽寺 様
272 柏樹寺 様
814 地藏院 様

◆福島県

101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
133 永祿寺 様
139 徳成寺 様
173 長慶寺 様
175 天澤寺 様
209 吉祥院 様
226 常隆寺 様
381 宗英寺 様
405 勝方寺 様
446 天宗寺 様
461 正法寺 様
稿本浩一 様

顧問
飯島恵道

今期顧問を務めさせていただき飯島恵道と申します。全曹青の皆様のご活躍を祈念しつつ、「女性目線・尼寺目線」からの発言をさせていただき、活動を通して「男女を問う事なかれ」が実現できたと考えております。よろしくお願いいたします。



顧問
安達瑞樹

前期では、各地青年会の皆様、宗門諸老師がたには、格別のご助力を賜り、誠にありがとうございました。多くの方々と共に活動させていただいた経験は、私の大切な宝となりました。今期は顧問、全日仏青では次期理事長を推薦する推戴委員長を務めさせていただき、倉島会長をサポートしてまいります。新しい全曹青にご期待ください！



顧問
村山博雅

元全日仏青理事長の経験を活かし、世界仏教徒青年連盟(WFBY)会長代行として、倉島会長の諮問に応えつつ、全日仏青・(公財)全日本仏教会・世界仏教徒連盟(WFB)他諸団体と本会の緊密な関係を構築させていただき一助を果たしたいと考えます。その上で、大本山總持寺開催・世界仏教徒連盟世界大会の勝縁を以て、曹洞「禅を世界へ、そして未来へ」繋ぐべく全力を注いでまいります。全日本と全世界、超宗派、超宗教という多角的かつ広い視野の中で確立できる、時宜に適い時代に即応する青年会活動の実現に邁進する所存です。



事務局長
山田俊哉

秋田県曹洞宗青年会から参加しております。大変重い役を拝命しました。今期も会務は幅広く沢山ありますが、熱いスローガンのもと、充ちるやる気を皆から感じます。自分のできることを精一杯やること。信じ合える仲間を、大いに助け合って生きること。世界に向けて羽ばたく全曹青、大海原へ力強く！鳥人間コンテストの押す人みたいに、頑張ります。



ごあいさつ
執行部の

全曹青
real voice



副会長
原知昭

第22期副会長を務めさせていただきます。いずも曹洞宗青年会の原知昭です。倉島会長が全日仏青理事長を兼任される今期は、全曹青のみに留まらず大きな事業が控えております。歴代全曹青、また宗門先達方が連綿と引き継いでこられた禅の精神を、今期スローガン「禅を世界へ、そして未来へ」にあるようしっかりと国内外へ発信し、未来へ引き継いでまいります。そのためにも加盟曹青会様、曹洞宗婦人会様をはじめとする宗門各団体と連携を密に行い、宗門発展の一助を担えるよう務めてまいります。よろしくお願いいたします。



副会長
菅原宗玄

第22期がスタートし、すでに様々な自然災害が全国各地において多発しています。そのような事態に、たくさんの青年僧の方々、今だから出来る事、今しか出来ない事を考え、自ら進んでボランティア活動に参加されています。我々全曹青は、今後起こり得る災害に対処出来るよう、研修会による人材の育成を目標に活動してまいります。若い時の経験が人生の糧となり、未来に繋がり、そして、僧である前にひとりの人間としてどうあるべきかを考え、共に精進してまいります。



副会長
河口智賢

私は第19期法式委員、第20期40周年事業実行委員、第21期教化法式委員長と務めさせていただき、今期で4期目の参加となります。これまで一般の方への新たな布教の取り組みとして精進料理教室「味来食堂」の開催や、宗門僧侶を対象とした全曹青アプリ「アプリソウセイ」法式公務帳の制作などに務めてまいりました。今期は「禅を世界へ、そして未来へ」を基に禅のもつ魅力を広く社会へと繋げ、世界へと発信することに邁進していく所存です。



会計
河村達磨

この度、第22期会計を拝命いたしました三重県曹洞宗青年会の河村達磨と申します。全てが初めての事ばかりで不安と緊張の連続ですが、会長を中心に各々高い志を持ちたくさんの良い刺激を受けております。会の運営や活動が円滑に進むよう努めてまいります。『禅を世界へ、そして未来へ』このスローガンのもと微力ではありますがお役に立てるよう精進していく所存です。至らない所も多々あるかと思いますが2年間よろしくお願いいたします。



連載



第1回

勿体ない

愛知県 正壽寺寺族 早坂宏香

そろそろ年末も見えてきました。忘年会や新年会、様々な宴席に参加される方も多いと思います。宴会といえば、いろんな方との会話が弾みつついっしょに食事は後回しになりがちですね。最後は、テーブルいっしょにお料理を残して散会…よくある宴会の流れです。もったいないとは思っても、そこそこ空腹は満たされているし、終わりがけに手をつけるのも恥ずかしい、なんて言い訳をしながらいつものように終わりがけたある日の宴会での出来事です。そろそろ会計をという時、ある方が大きな声でおっしゃいました。

「せっかく用意いただいたお食事です、無理をすることはありませんが、もったいないのでみんなで食べて帰りましょうよ」

それから手近にあった料理を豪快に食べ始めたのです。その声をきっかけに、同席者みんなでワイワイ完食して気持ちよく帰路につきました。

もったいない(勿体無い)という言葉は様々な意味を持っていますが、実は仏教に深く関わりのある言葉で、勿体とは、もの本質を表す仏教用語です。それが無いと表現しているのが「勿体無い」です。

では、仏教の示す「ものの本質」とはなんでしょう？私が存在するということは様々な物事の集まりによって成り立っているありがたいことなのですよ、ということ

つまり勿体無いとは、本質を失っている状態、感謝の気持ちを失っている状態のことを表していたのです！

以来、食べきる・持ち帰るように工夫し、どうしても無理な時は謝辞を伝えるようになりました。これからも感謝の気持ちを忘れず、毎日過ごしていこうと思いを新たにしたのでした。



はじめまして。名古屋にある、正壽寺寺族早坂宏香です。お寺へ嫁いではじめてふたは
祥の玉手箱。そのステキな出遇を記録、まいります。若輩者ですがどうぞよろしくおねがひします。合掌

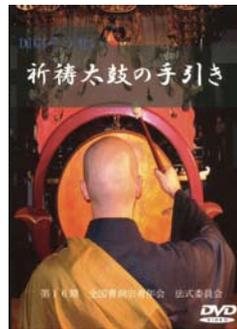
お知らせ

D I G I そ う せ い 再 頒 布

全曹青オリジナルDVD『DIGIそうせい』シリーズについて、第16期に頒布いたしました『祈祷太鼓の手引き』と、第17期に頒布いたしました『声明の手引き』は長らく在庫切れの状態でしたが、多くのご要望に応え、この度、再頒布のはこびとなりました。

『祈祷太鼓の手引き』は太鼓の打ち方の基礎から応用までわかり易くまとめられており、全国の有名祈祷寺の法要や雄壮なる祈祷太鼓の映像が収録されております。『声明の手引き』はDVD2枚組で故春木龍仙老師による「歎佛会」「観音懺法」「大布薩」「羅漢講式」等の講式声明や授戒で唱える「南無大悲観世音」などが収録されており、「壱岐歎佛」「新潟観音懺法」等の実際の映像も収録されております。

頒布価格 各2,000円



本誌封入のチラシ・申込用紙でお申し込みいただくか、HP『般若』より、全曹青オンラインショップ <https://shop.sousei.gr.jp/> でお求めください。

青年僧侶のおすすめの1冊

『別に深い交際でもないのに、あの故郷を何千里も離れた異郷の町で、野で、林の中で、同僚が或る瞬間とった姿勢とか表情が、まるで私の一部となってしまったかのよう、思い出されて来る。そしてその人がいまは亡いという事は、何か重大な意味を持っているらしく、思い出だけで、まるで実在しているかのように、働きかけてくる。死者がいつまでも生きているように感じられるとき、生きている者は、涙を流すほかならないのである』

著者である大岡昇平は、フィリピン戦線で過酷な戦場体験を送っている。この本で書かれているのは、その25年後、著者がフィリピン・ミンドロ島を再訪した際の記録である。全編に戦死した同僚への悔恨の念がみなぎっている。

日頃、葬式供養を執り行う身であると、なぜ遺族たちの代わりに、ほぼ他人に近い自分がお経を上げるのか疑問に思うことがある。そういつたときは、上の文章をよく読む。『いつまでも生きているように感じられる死者』から直接働きかけられると、生者は『涙を流すほかなく』辛いのだ。だから間に入る防波堤としての仲介者が必要だ。四十九日、年回忌といった供養を通して「死者」と距離を置いて付き合えるようにすることが僧侶の役割であると再認識している。

担当／広報委員 田ノ口太悟

衝立型 掲示額縁が完成

現在お寺には、布教教化や行事のお知らせなど多くのポスターが有り、掲示場所や方法にお悩みの方も多いのではないのでしょうか。

この度、様々な掲示方法に対応する『衝立型掲示額縁』を製作いたしました。

大型の額縁として壁に掛けるだけでは無く、台足を付けて衝立として、床の間や玄関などより多くの方の目に止まる場所への掲示を可能としています。A1の大判ポスターが収まるサイズで、管長猥下の「告諭」を掲示する額縁として壁に掛けてもお使いいただけます。

限られた空間を有効に使い、人目を引く効果的な掲示を行い、布教教化と行事の活性化にお役立て下さい。

『衝立型掲示額縁』30,000円

- 【寸法】・衝立部 770mm×1,025mm×280mm (台足を取り付け時)
- ・額縁 710mm×960mm×20mm (内寸 598mm×845mm)
- 【材質】 桐(本体)、アクリル(表面カバー)
- 【内容】『額縁』、台足(裏面に吊り下げ金具取り付け済)



大岡昇平著 『ミンドロ島ふたたび』 中公文庫



表紙の話

日常生活の中での坐禅をイメージして撮影しました。

撮影者／PG 原依里

撮影場所／福岡県糸島市 Petani coffee